



中越地震における復興支援プロセス

社団法人中越防災安全推進機構 復興デザインセンター長
ながおか市民協働センター長

稲垣文彦



中越メモリアル回廊
The CHU-ETSU Earthquake Memorial Corridor

ひとりひとりの小さな声を
復興の大きな流れへ



ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議

CHUETSU
FUUKOU
NETWORK



ひとつひとつの小さな動きを地域復興の大きな動きへ
地域復興交流会議



CHIKI
FUUKOU
NETWORK

地域復興のための中間支援組織・中越復興市民会議の役割

2004

2005

2006

2007

2008

復旧・復興プロセス

復興計画

再建地域における生活

再建地域に係る住民の合意形成

ガレキ処理・インフラ整備

仮設住宅 3年2ヶ月

避難所 2ヶ月

ボランティア

ボランティア

再建地域
における生活
(新しい環境への
適応支援)

↓
新しい
中山間地施策

発災

支援者

生活支援相談員

行政機関(市町村・県・国)

コンサルタント

中越復興市民会議

地域復興支援員

↑ 人材育成

復興デザインセンター

中越復興市民会議の役割 = 支援の隙間を埋める

1. 中間支援(つなぎ、通訳)

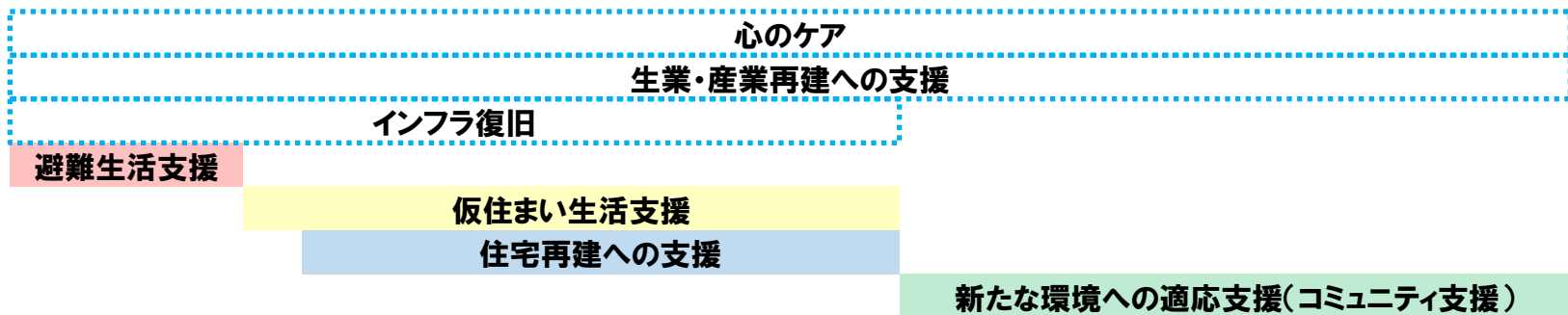
- ・行政と住民とのつなぎ(現場での建設的な議論、基金施策の生み出し等)
- ・住民と外部支援者(ボランティア・大学・専門家等)とのつなぎ
- ・住民と住民とのつなぎ(近隣地域の競争意識・連携意識の醸成)

2. 再適応支援(新しい環境への適応支援、新しいコミュニティづくり支援)

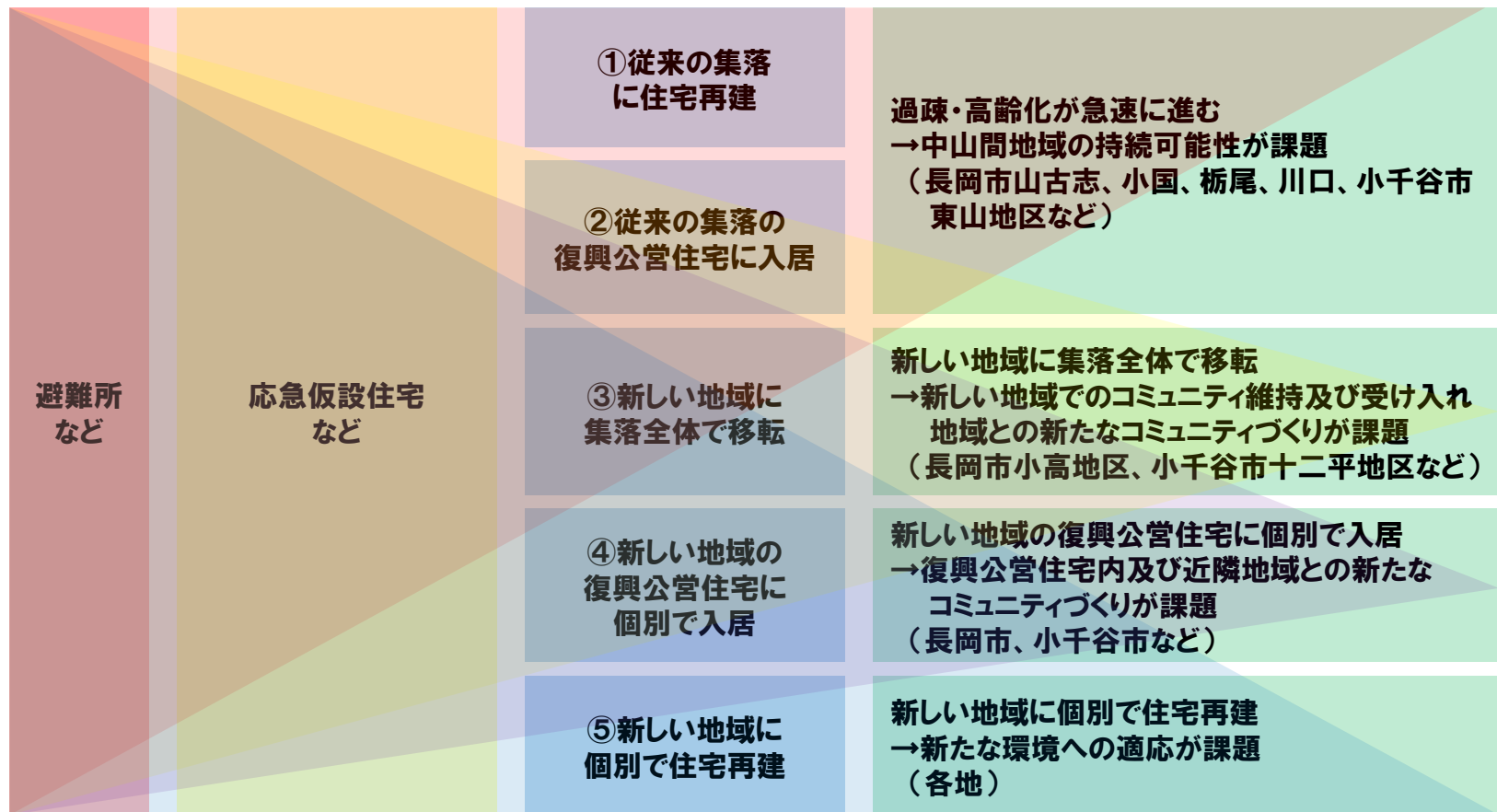
- ・再建地域における生活支援(新しい環境への適応支援)
- 住民の主体性の醸成 住民主体の復興まちづくりへ

時間経過による復興課題の変化と支援の質の変化

復興支援



住宅再建の違いによる環境(コミュニティ)の変化のパターン



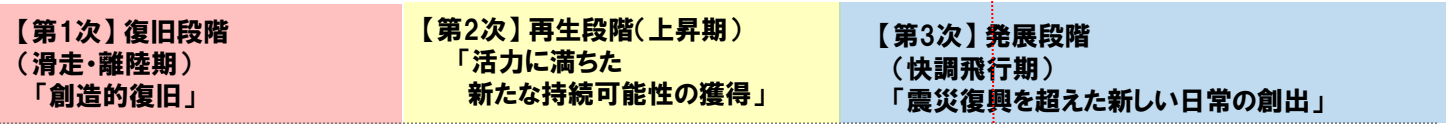
中山間地域に対する復興支援プロセス

2004.10.23

中越
大震災
復興ビジョン
(2014年の二つの記録)

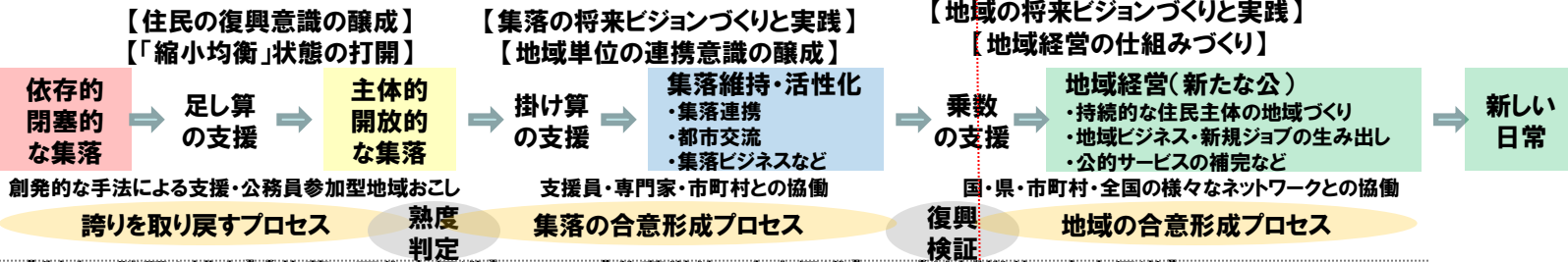
2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014

新潟県中越大地震復興計画(ローリングプラン)

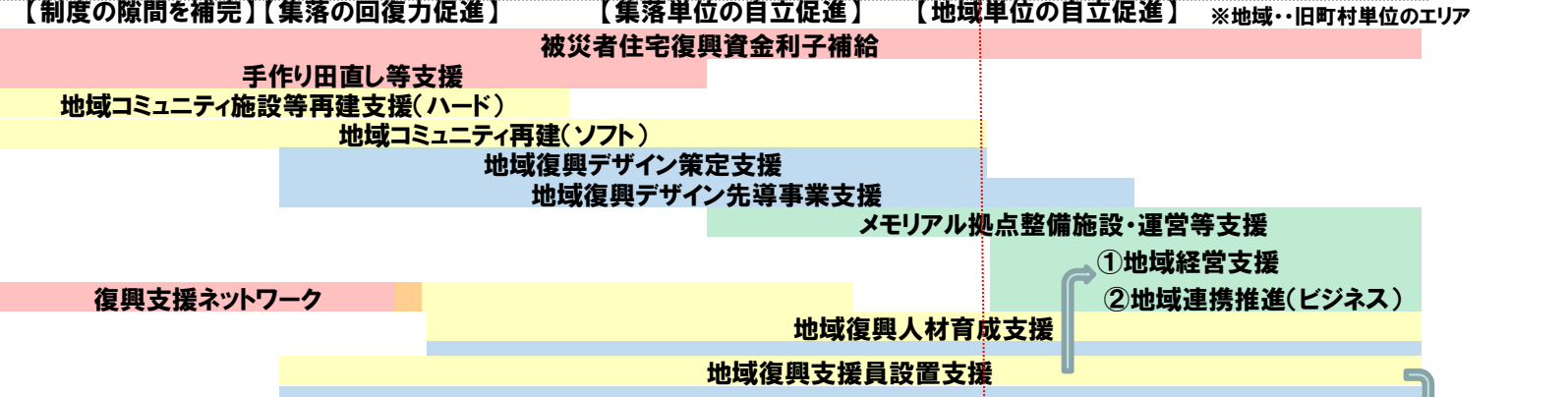


急激な
過疎・高齢化
の進行

復興支援プロセス
から見えてきた
過疎対策

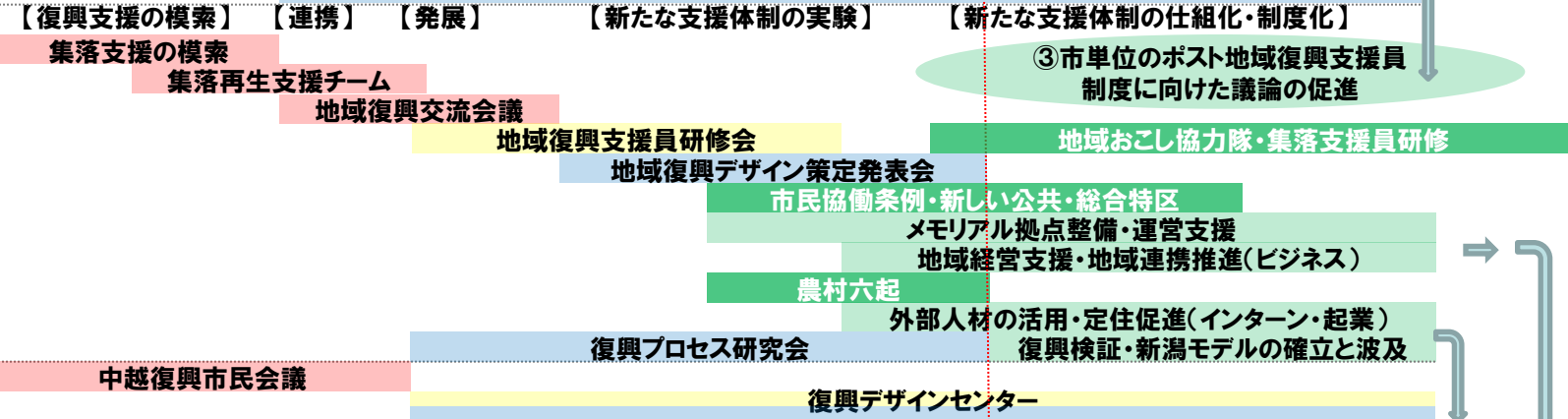


復興基金



地域主権

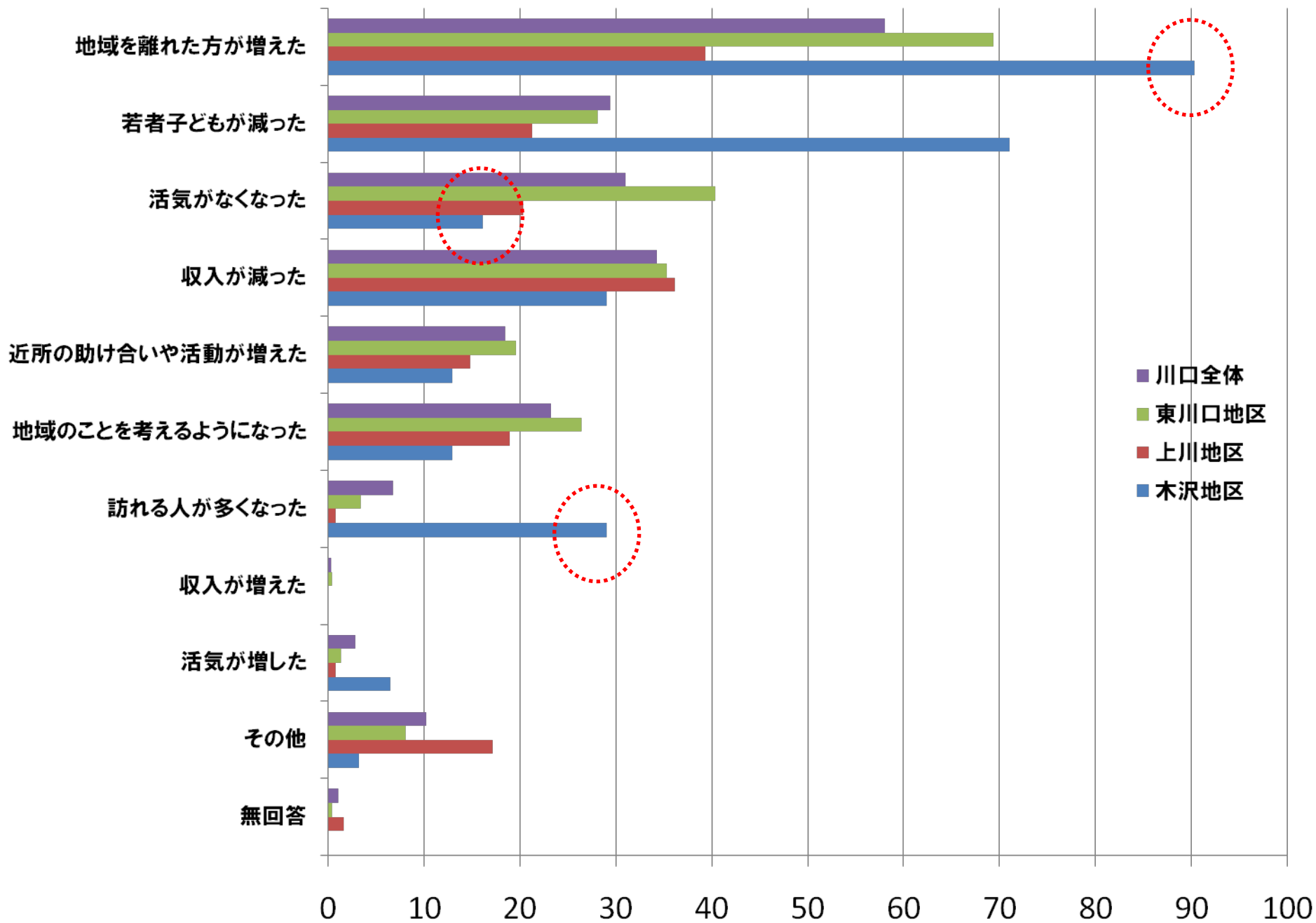
中間支援組織
とその活動



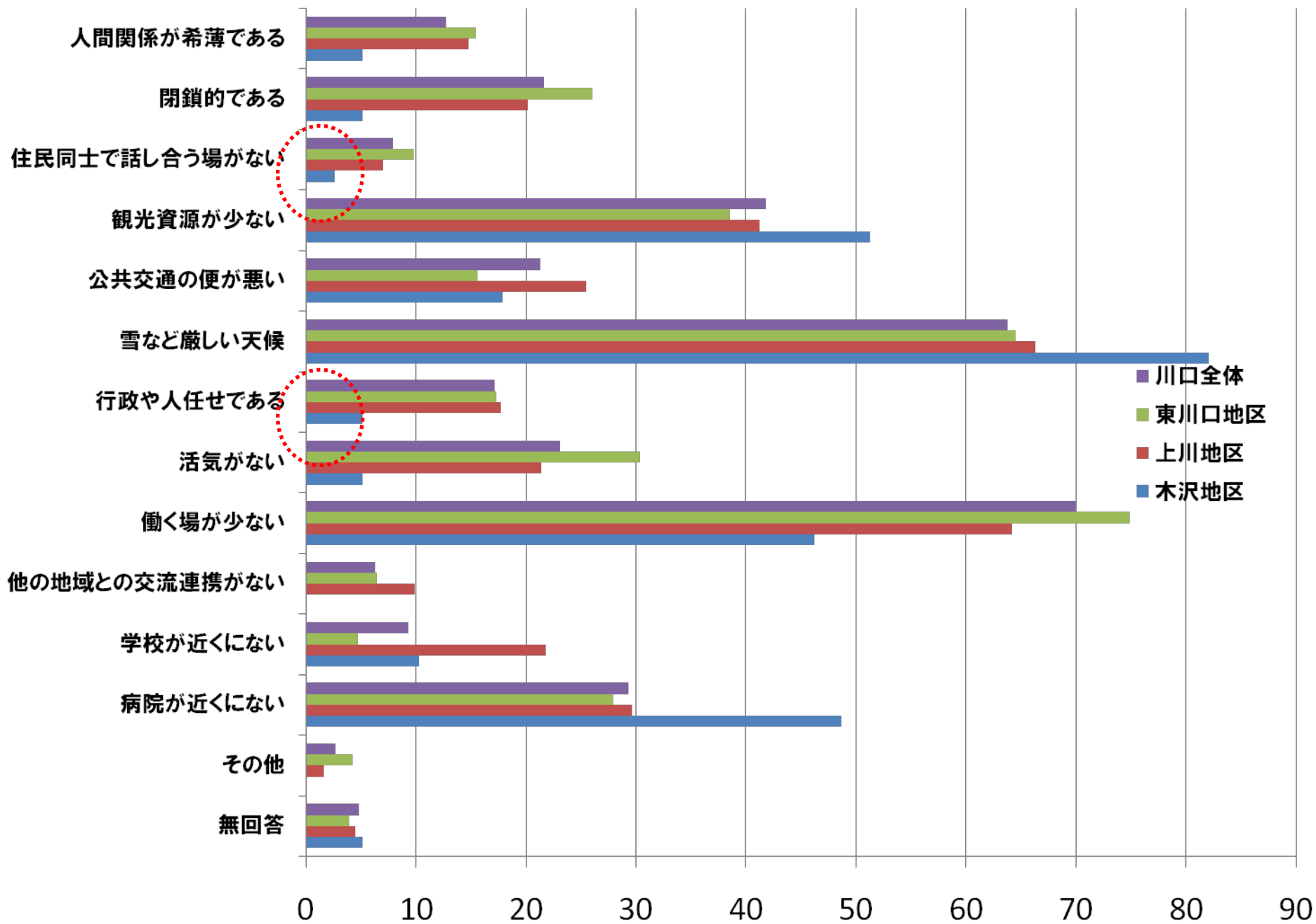
人的支援の有効性
バックアップ組織の必要性



問2. 問1で変わった方に質問です。何が変わりましたか。(番号いくつでも○)



問7. 川口の悪いところは何ですか。(番号いくつでも○)



「復興支援員」制度について

制度の概要

(1) 目的

被災者の見守りやケア、地域おこし活動の支援等の「復興に伴う地域協力活動」を通じ、コミュニティ再構築を図る

(2) 実施主体

被災地方公共団体(※)

(※)東日本財特法に定める「特定被災地方公共団体」又は、「特定被災区域」を区域とする市町村(9県・222市町村)

(3) 設置根拠等

被災地方公共団体が定める復興計画やそれに基づく要綱等を根拠とし、被災地域内外の人材を委嘱

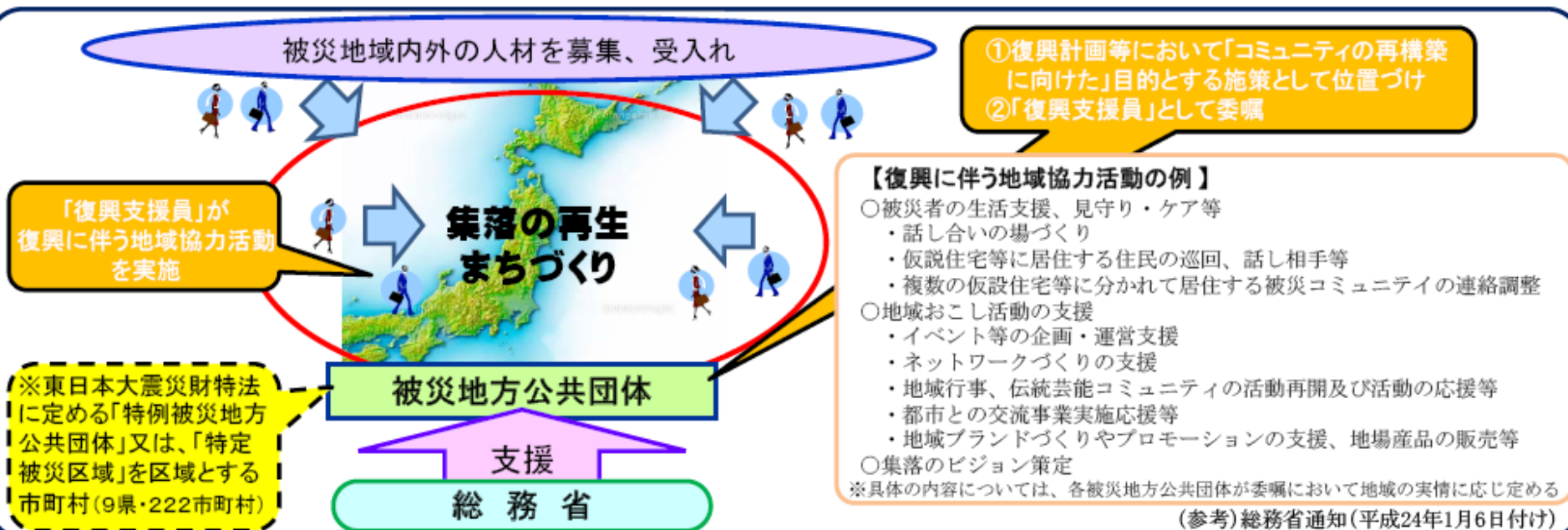
(4) 期間

概ね1年以上最長5年

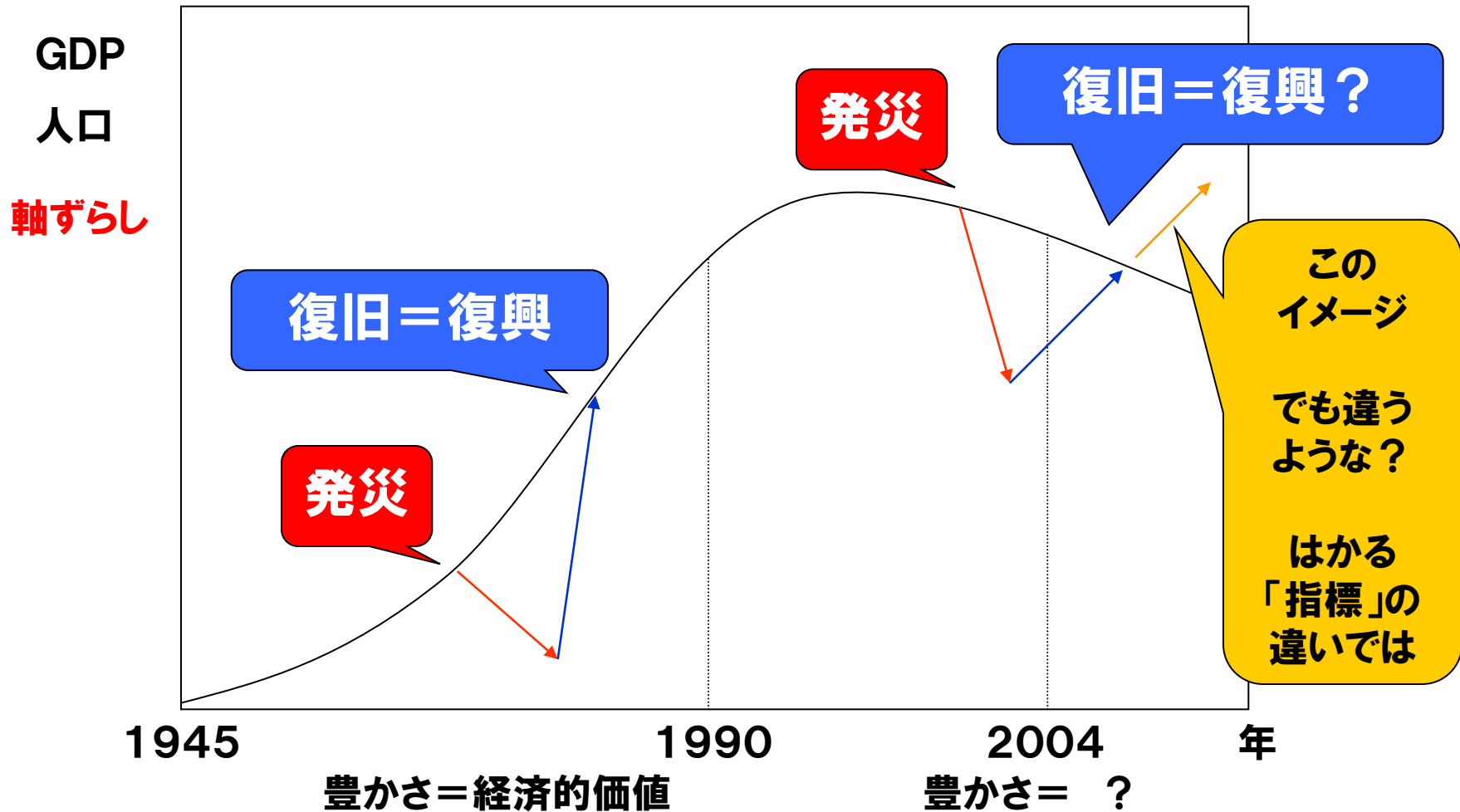
(5) 総務省の支援(2011年度～)

復興支援員を設置する地方公共団体に対し特別交付税措置(支援員1人につき、報酬等(上限200万円)+活動費(必要額)を措置)

その他、地域おこし協力隊等のノウハウを活かし、募集や研修、マネージメント面で地方公共団体をサポート



災害からの復興とは？



- ◆ 今までのものの見方を問い直す
復興とは、「問い直し」？
復興とは、「豊かさ」さがし？